

## プロジェクト・ニュース (2022 年 12 月)

### 成果 1：泥炭地と泥炭地マッピングの重要性

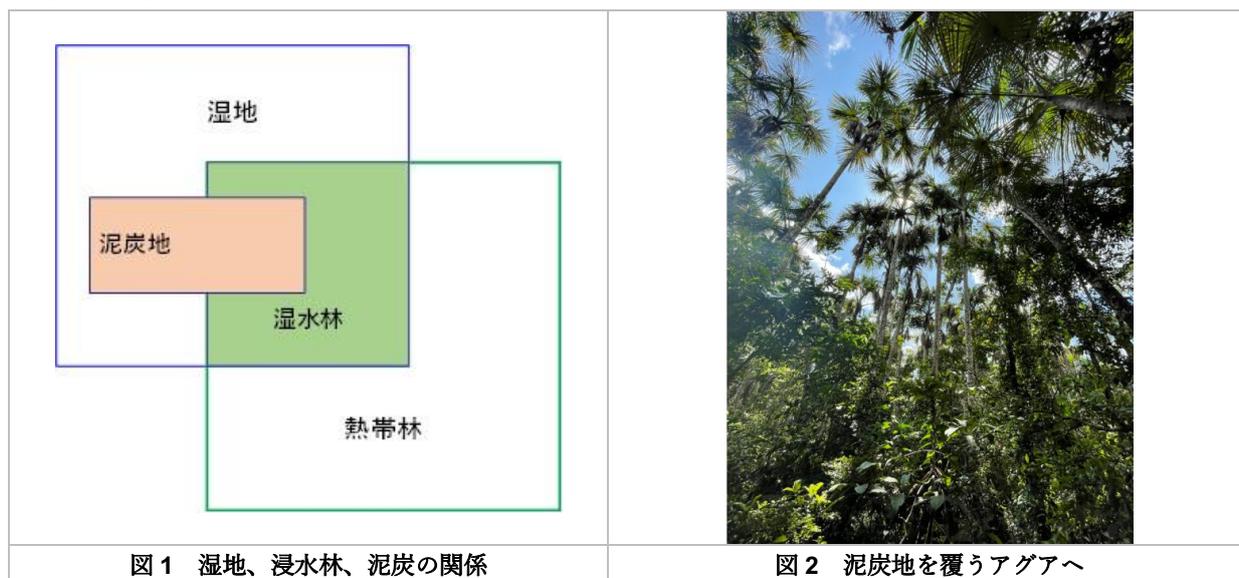
プロジェクト一般概要：<https://www.jica.go.jp/project/peru/008/outline/index.html>

ペルーアマゾンには、広大な湿地と浸水林、泥炭地が広がっており、それぞれの関係は図 1 に示すとおりである。湿地の草や樹木が水中に落下し堆積、長い年月をかけ分解され炭素が凝縮したものが泥炭で、泥炭が濃集した層が泥炭地である。泥炭地での開発のための排水や火災が発生すると、泥炭中の炭素が大気中に二酸化炭素として放出されてしまう。

全世界の泥炭地面積は、陸地面積の約 10%に相当する約 423 万平方キロメートル<sup>1</sup>とされており、内、熱帯地域の泥炭地の場合、炭素蓄積量で、インドネシアが最も多く、次いで、コンゴ民主共和国、コンゴ共和国、そしてペルーの順である。ペルーの位置するアマゾン盆地では泥炭の厚さは 8m に達することもある。

湿地に多い泥炭地へのアクセスは限られているため、正確な実態把握と管理が難しい。この一策として精度の高い泥炭マップが必要となっている。マップは、泥炭地の炭素量の推計を可能とするため、泥炭地に蓄積されている炭素を、気候変動枠組条約・パリ協定に基づく NDC (自国が決定する地球温暖化ガス排出削減目標) の一部として組み込むためにも不可欠なモノである。

アマゾンの泥炭地は、図 2 に示すアグアヘ (オオミテングヤシ) のような特有の樹種で覆われることが知られており、先行プロジェクトでは、このアグアヘを指標とする泥炭マッピング手法を開発し、アマゾンに位置するサンマルティン州とウカヤリ州の泥炭地ポイテンシャルマップを作成した。本プロジェクトでは、この手法を改善し、マッピングの対象範囲をアマゾン全域に拡大する。先行プロジェクトに続き、地方政府でも持続的に活用できるよう、手法開発は、無償衛星画像とオープンソースソフトウェアを用い行う。



<sup>1</sup> Xu, J., Morris, P. J., Liu, J. and Holden, J. (2018) PEATMAP: refining estimates of global peatland distribution based on a meta-analysis. CATENA, 160, pp. 134-140.